都留文科大学学長に
白尾恒吉氏就任

都留文科大学では、上田薫前学長の任期満了に伴い、新学長に白尾恒吉氏を迎えました。

白尾氏は、大正十三年生まれ、名古屋大学理学部卒、理学博士。名古屋大学教養部教授、東京都立大学理学部教授、青山学院大学理工学部教授を経て現在に至る。

ごあいさつ

都留文科大学学長
白尾恒吉

上田前学長の後任として、四月一日付で都留文科大学に参りました。本県とは隣合わせの静岡県の浜松市に生まれ、同地で約二十年を過ごしました。その後勤務先が変わるのに応じていくつかの地方に住み、現住所の横浜市に移ってからは約十八年が経ちます。昔から研究や講義のためにいろいろなところに参りましたが、不思議とこの山梨県には縁がありませんでした。今回お招きいただき大変光栄に思っております。

子どものころ川中島合戦の話を聞いて、まわりの仲間は皆上杉謙信が好きだと言っていましたが、何故か私だけが武田信玄びいきでした。そのころの感情が尾をひいているのか、いまだに武田信玄のことを書いた記録とか小説とかに関心があります。それらの中には〝甲斐は山国である〟という言葉がしばしばでてきます。今までは通りいっぺんの気持ちでその言葉を眺めておりましたが、今度都留に来て両側に迫る山並みを見て、なるほどと実感しております。季節的にも良い時期なのでしょうが、今は都留の恵まれた自然環境、気持ちよい樹々の緑、富士の雪どけ水のおいしさをふんだんに味わっております。

都留という名前を私が初めて知ったのは昭和十三年か十四年の頃で、五十年以上も前のことです。夏の全国高等学校野球大会の前身で、当時は中等学校野球大会と言っていたと思いますが、全国大会には山梨県と静岡県を併せた地域から一校のみの出場が認められておりました。両県から県大会の優勝校と準優勝校が集まり、四校で甲子園への出場権をかけて争ったのです。この山静大会に都留某という学校がでてきたのです。今度当地に来て伺ってみますと、都留中は現在の大月市にあるということですので、当時の出場校が現在の都留市にある学校か、大月市にある学校か定かではありません。そんなことを思いだしながら都留文科大学の過去の様子をもっと知りたいと思っていたところ、三十周年を祝って出版された都留文科大学記念誌を御贈りいただきました。それに載っている先生方や卒業生の手記を拝見しますと、創立以来数々の困難に打ち勝って、今日の姿に発展してきた様子がよくわかります。諸先輩の奮闘努力には感謝のほかありません。また、学園都市を標榜し、本学を育ててくださった市民の皆さまの見識の高さにも敬服する次第です。

大学を取り巻く社会環境の変化については、上田前学長が数回にわたり本誌に寄稿しておられますので、市民の皆さまもある程度ご存じのことと思います。我が大学が現在直面している問題を要約しますと、次の二点になるかと思います。

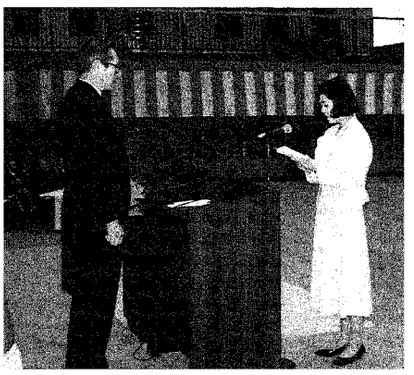
第一の点は、大学進学希望者の主力を占める十八歳人口が、二年後をピークとしそれ以降急速かつ長期にわたり減少することです。受験生の減少自体が多くの大学にとっては財政上の問題となります。ましてや学生の定員割れということになりますと、大学の存立にまで関係してくることになります。各大学はその対策に苦慮しており、まさに〝大学淘汰の時代〟が始まったといえます。

第二の点は、児童数の減少にともない、全国的に教員採用の枠が縮小していることです。これも長期化を覚悟せざるを得ません。開学以来、教員養成を主たる柱としてきた本学にとっては大きな打撃です。

第一の点については、各大学に共通する問題です。施設を充実させると共に、大学での教育の質を益々高め、学生にとっても魅力ある大学にしていかなければなりません。次に第二の点ですが、大学は教育機関ではありますが、社会の変化に超然としていられるわけではありません。時代の求めるもの、社会の求めるものは何かということについての深い洞察力と先見性をもつことが必要です。二点とも、目先のことに振り回されることなく、本質的な対応をすることが肝要かと思います。

有名な米人学者のアーサー・レヴィンは次のように言っています。〝危機とは危険と機会の合成語である。逆境の中にこそ好機がある〟私たちも十年、二十年後に現在を振り返って、あれは大学発展の好機であったと笑って話せるようになりたいものです。それが都留文科大学を育ててきた先輩たちの通った道でもあります。

申すまでもなく、わが大学は都留市のもつ公立大学であります。市民の皆さまのご協力を得て、大学の発展と、またそれをとおして都留市の発展に貢献できるよう全力を尽くすつもりでおります。

都留文科大学入学式挙行される

都留文科大学では、四月十日、市民総合体育館において、平成二年度の入学式が行われ、初等教育学科、国文学科、英文学科、社会学科、編入学生合わせて六一六名が入学しました。四月一日に就任した白尾恒吉学長は、式辞で「心身ともにたくましい社会人になるよう、充実した時を過ごしてほしい。」と激励。これに対して新入生を代表して安田泰子さん（国文学科）が、「豊かな知力、体力を身に着け、新しい時代の担い手となります。」と誓いの言葉を述べました。